

# CUNY研修報告会

電気・電子情報工学専攻  
博士課程前期  
吉村太志



## 研修先について

### 研修大学

■大学名:

Queens College, City University of New York

■設立

ニューヨーク州クイーンズ地区に1973年に設立

■生徒数

約18000人

■専攻、学科

物理学やコンピュータサイエンス、心理学、数学、生物学



### 担当教員



■名前

Mohammad Ali Miri, Assistant Professor

■研究内容

フォトニック結晶や光導波路中の光の伝搬を解析することによる新たな光学現象の調査



# 研修目的と研修内容

## 研修目的

### 【1】海外の人とコミュニケーションを図りたい

- ・旅行が趣味であり海外への興味が高かった
- ・将来的には海外勤務も考えている

### 【2】海外の研究室での研究や雰囲気を経験したい

- ・海外の研究室での生活は旅行では体験できない

## 研修内容

LEDの特性改善に向けた新構造の検討、LED作製プロセスを行っている

➡ シミュレーションを用いたLED構造の検討

- 1~2週目:研究紹介、シミュレーションを行うための準備
- 3週目:COMSOL Multiphysicsを用いた解析前準備
- 4週目:本学で検討していた構造の解析  
→ 手計算で算出した結果との照らし合わせ

# 研修成果

## 研修を通しての成果

- 【1】英語でコミュニケーションを図れたという自信が身についた  
→ 積極的に話す、コミュニケーションを取ることの重要性を学んだ
- 【2】海外の学生の研究に対する意識の高さを学んだ  
→ 学会や論文投稿を積極的に行っている
- 【3】シミュレーション結果が本学で行っている研究の参考になった

## 生活を通しての成果

- ・休日は積極的に外出することにより様々な文化を学んだ  
→ アメリカには様々な料理や調味料がある  
→ 教会などが街中に点在  
→ 様々な人種、言語のなまり
- ・日本とアメリカの規模の違い  
→ 食べ物や日用品、建造物が大きい



# アメリカでの生活

## アメリカでの生活

- ・平日は9時~17時の間で大学で研修
- ・ニューヨークは非常に物価が高いため基本的には自炊を行った
- ・休日は様々な観光地に行き、アメリカを満喫
  - 自由の女神、セントラルパーク、ミュージアム、ハーバード大学など



充実した期間を過ごすことができた



# 今後の目標・課題

## 違い

- ◇アメリカの大学では、日本よりもPhD(博士号)取得率・進学率が高い
- ◇自分と同じ年齢の学生でも学会や論文などに多くの成果を投稿
  - 研究を行っている人間として非常に刺激を受けた
  - 学会や論文投稿を行いたいと思いがより強くなった

## 今後の目標

国際学会や応用物理学会などへの研究成果の投稿

## 目標に向けて

- ☑広い視野を持ち研究を行うこと
- ☑英会話の向上

# 終わりに

## 感想

- 研修を通して得るものが多くあり貴重な体験となった
- 食べ物がおいしかった
- 様々な観光地に訪れることができ、アメリカを満喫できた
- また行きたいと思える国であった

## アドバイス

- 物価がかなり高いためできる限り自炊したほうが良い
- 宿泊施設の予約は早めの対応がおすすめ
- ピザ、ハンバーガー、ステーキおすすめ
- セントラルパークに行ってみてほしい  
→ 様々な人が様々な目的で集まっているが落ち着いた雰囲気
- タイムズスクウェア気をつけたほうが良い
- 積極的に外出したほうが楽しい